



特別展

家元に伝わる茶の湯の道具

表千家歴代ゆかりの掛物

2012年10月20日(土) — 12月16日(日) 月曜日休館

表千家北山会館

開館時間＝午前9時30分～午後4時30分(入館は午後4時まで)

入館料＝一般1000円／団体(20人以上)お一人800円／高校生・大学生800円／中学生以下無料 ※入館料には呈茶を含んでいます。

主催＝表千家北山会館・京都新聞社 後援＝京都府・京都市・京都府教育委員会・京都市教育委員会・京都市内博物館施設連絡協議会

千 利休筆「御所会記」 不審菴 床



織田信長黒印状 利休宛



東福門院作 縫絵 桃の絵

家元に伝わる茶の湯の道具

表千家歴代ゆかりの掛物

本年より、表千家北山会館の特別展は、表千家に伝わる歴代家元ゆかりの茶道具をテーマとし、今後、シリーズとして継続開催してまいります。今回の「掛物」の展覧はその第一回目となります。

おもな展示品のなかで、千利休から鉄砲の玉千個を贈られたことに対する利休宛の信長の黒印状や、3代元伯宗旦が後水尾天皇の中宮、東福門院から拝領した縫絵は、天下人や禁裏・公家と深い交流があったことを示しています。また、「不二の絵賛」は、6代覚々斎が江戸で徳川8代將軍吉宗より拝領した「桑原茶碗」(唐津焼)を京都に持って帰る途次、富士山を画題に俳句をそえたもので、紀州徳川家に仕えた表千家の由緒を物語っています。

このたびの特別展では、表千家歴代家元ゆかりの掛物を通して、家元の茶風、生涯、交流、時代背景をたずね、さらには掛物のもつ物語性を、関連する道具とともに紹介いたします。



覚々斎筆 不二絵賛

茶の湯文化にふれる市民講座

茶事に用いられる掛物から日常の稽古場の掛物に至るまで、それは茶会の主旨、趣き、季節感といった種々な視点から選ばれます。茶席の床に掛けられることで、その時の席主の思いが表出するものです。そうした掛物というものが、どのような変遷をたどり、今の姿に整えられたのか、また、数寄者の方々が掛物に寄せる想い、さらに、歴代家元の掛物に見える書風や、その語句からうかがえる時代の様相などをお話いただく予定です。

▶11月3日(土・祝) 堀内 宗完氏(表千家)
「千家茶の湯における掛物の役割」

▶11月17日(土) 名兄耶 明氏(五島美術館学芸部長)
「茶掛けの書はなぜ尊重されるか」

▶12月1日(土) 木下 収氏(北村美術館館長)
「茶掛けを楽しむ」

時間＝午後2時～4時(開館は午前9時30分) 定員＝200人(1回)
参加費＝2,000円(当日の特別展見学と呈茶を含む)
※電話で事前に申込みが必要(先着順) 電話 075-724-8000



唐津茶碗 銘 桑原

当館への交通について



- ▶JR「京都駅」より
 - ・地下鉄烏丸線国際会館行「北山駅」下車、4番出口をてて西へ徒歩約5分
 - ・タクシー約30分
- ▶阪急電車「烏丸駅」より
 - ・地下鉄烏丸線乗り換え「北山駅」下車
- ▶京阪電車より
 - ・「三条駅」より地下鉄乗り換え「烏丸御池駅」乗り継ぎ「北山駅」下車
 - ・「出町柳駅」よりタクシー約15分

表千家北山会館

〒603-8054 京都市北区上賀茂桜井町61
電話 075-724-8000 Fax 075-724-8007
<http://www.kitayamakaikan.jp>